難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」分布拡大中

～早期発見・早期駆除を！～

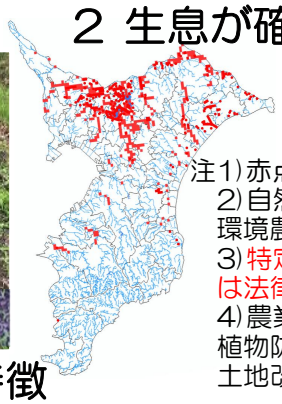
（令和６年９月改訂）

ナガエツルノゲイトウは定着すると駆除は非常に困難なので、未侵入の水田では早期発見と早期駆除が重要になります。種子繁殖はせず、茎葉で増殖して群落化する特徴があります。草姿や生育の特徴を理解し、畦畔、用排水路及び水田の水口を巡回して早期発見に努めましょう。

１ 水稲に与える被害

水田に侵入すると繁茂により減収するとともに、収穫時期には稲に覆い被さり倒伏を助長し、さらにコンバインの詰まり等収穫の作業性が低下します。

２ 生息が確認された地域



近年、栗山川から九十九里地域、また、小櫃川、小糸川水系に分布を広げています

注1）赤点が生息確認地点
2）自然保護課、中央博物館、耕地課、環境農業推進課の調査結果より作成
3）特定外来生物なので持ち出しや栽培は法律で禁止されています
4）農業用用排水施設における外来水生植物防除事業については市町村及び土地改良区にお問い合わせください

３ ナガエツルノゲイトウの草姿の特徴

（１） 草姿（形態）

（２） 用排水路で繁殖

４ 水田における増殖と定着

①水口から侵入	②ほ場内にすき込み	③土中で越冬	④畦に埋め込まれる	⑤畦畔に定着	⑥畦畔から水田へ侵入
用水を介して本田に侵入し水口で増殖	水稲収穫後トラクターでの耕うんにより断片化しすき込まれる	茎の断片は土の中で越冬する	越冬した茎の断片は畦塗りで畦畔に埋め込まれる	４月上旬頃に茎の断片が芽生えるその後畦畔を覆うように繁茂する	畦畔に繁茂した後水田内に茎葉を伸ばす

②から⑥を繰り返す

畦畔の繁茂を放置すると土中深くにはびこり、駆除は難しくなる

上記の他、農機や長靴による侵入、田面での越冬・定着も起こり得ます
具体的な防除対策は本資料の裏面に記載しています（裏面に続く）

千葉県農林水産技術会議（問い合わせ先：各農業事務所改良普及課）

5 刈払い機等による畦畔機械除草は行わない

刈払い機によって断片化した茎葉は水田内や排水路に飛散し、発生場所が拡大します。また、刈ってもすぐに再生するので、刈払いは畦畔での繁茂を助長します。**防除は除草剤を活用しましょう。**

6 侵入防止及び除草剤による防除対策

（1）未侵入水田における侵入防止対策

水口（給水栓等）に網を設置し、茎葉の流入を防ぎます（右写真）。農機に付着して拡散するので、発生の無い水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。

（2）侵入極初期の防除方法

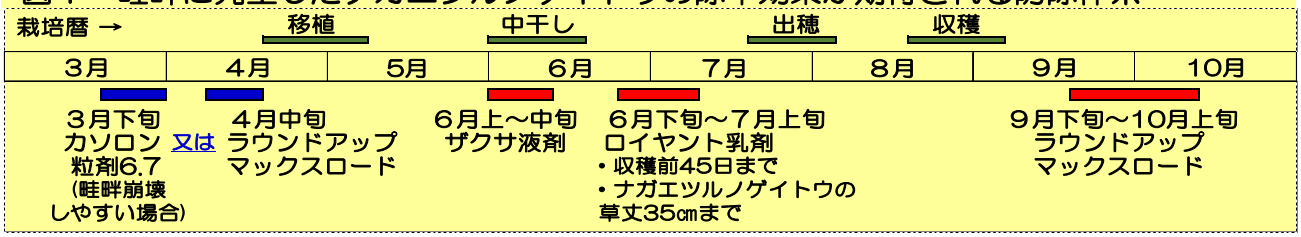
水田内の水口等の発生には、水稲栽培期間は**ロイヤント乳剤**（表２）、水稲収穫後はナガエツルノゲイトウの茎葉が展開した時期～降霜により枯れる前までに**ラウンドアップマックスロード**を散布します（表２）。畦畔に発生した時は**ラウンドアップマックスロード**を散布し駆除を目指します（表１）。

（3）畦畔及び水田で繁茂し、定着している場合の防除方法

１）畦畔の防除

代かき前及び水稲収穫後に**ラウンドアップマックスロード**を、中干し開始後に**ザクサ液剤**を散布し、7月上旬に**ロイヤント乳剤**を畦畔上及び畦畔から水田に侵入するナガエツルノゲイトウに散布します（図１及び表１）。崩れやすい畦畔では、水田入水前（３月下旬）の**カソロン粒剤6.7**散布に変えます。

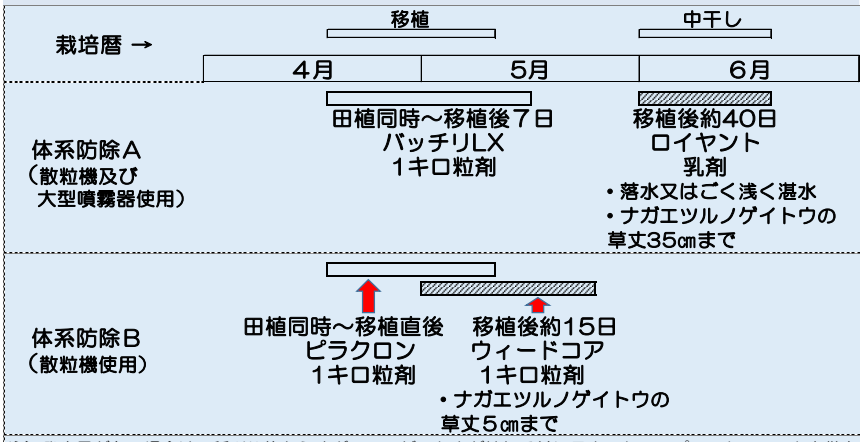
図１　畦畔に発生したナガエツルノゲイトウの除草効果が期待される防除体系



２）水田内の体系防除

水田内で発生が認められるときは、表２の除草剤を図２のように組み合わせた体系防除を実施します。

図２　水田内に発生したナガエツルノゲイトウの防除体系



注）発生量が多い場合は、稲刈り後からナガエツルゲイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布

体系防除Ｂと慣行防除の畝間の残草
注）実線丸がナガエツルノゲイトウ、
点線丸がイボクサ

（4）本資料で紹介した除草剤一覧

表１　水田畦畔で使用する除草剤の使用方法

作物名	除草剤名	使用時期	本剤の使用回数	10ａ当たり使用量	使用方法
水田作物（水田畦畔）	カソロン粒剤6.7	秋冬期～春期（雑草発生前～発生始期）	１回	４～６kg	全面土壌散布
	ラウンドアップマックスロード	収穫前日まで（雑草生育期）	３回以内	200～1000ml（希釈水量50～100ℓ）（少量25～50ℓ）	雑草茎葉散布
	ザクサ液剤	収穫７日前まで（雑草生育期）	２回以内	500～1000ml（希釈水量100～150ℓ）	雑草茎葉散布
	ロイヤント乳剤	収穫45日前まで（雑草生育期）	２回以内	200ml（希釈水量25～100ℓ）	雑草茎葉散布

表２　水田内で使用する除草剤の使用方法

作物名	除草剤名	使用時期	本剤の使用回数	10ａ当たり使用量	使用方法
移植水稲	ピラクロン１キロ粒剤	移植時	１回	１kg	田植同時散布機で施用
		植代後～移植７日前又は移植直後～ノビエ1.5葉期（ただし、移植後30日まで）			潜水散布又は無人航空機による散布
	バッチリLX１キロ粒剤	移植時	１回	１kg	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ2.5葉期（ただし、移植後30日まで）			潜水散布又は無人航空機による散布
	ウィードコア１キロ粒剤	移植後７日～ノビエ４葉期（ただし、収穫60日前まで）	２回以内	１kg	潜水散布又は無人航空機による散布
	ロイヤント乳剤	移植後20日～ノビエ５葉期（ただし、収穫45日前まで）	２回以内	200ml（希釈水量25～100ℓ）	落水散布又はごく浅く湛水して散布
水田作物（水田刈跡）	ラウンドアップマックスロード	雑草生育期	１回	500～1000ml（希釈水量50～100ℓ）（少量5～50ℓ）	雑草茎葉散布

注）ラウンドアップマックスロードは耕起前（雑草生育期）にも２回以内で使用できます（使用方法はラベルの表示を確認）

農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った

千葉県農林水産技術会議（問い合わせ先：各農業事務所改良普及課）